様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年６月２７日現在

機関番号：８２６６２
研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2009～2012
課題番号：２１３３００５０

研究課題名（和文）　アジア地域貧困問題研究用の世帯統計ミクロ統計データベースの編成とその解析

研究課題名（英文）　Construction of and analysis on household statistical micro data bases for the study on poverty problems in the Asia region

研究代表者
伊藤　彰彦（ITO AKIHIKO）
（公財）統計情報研究開発センター・研究開発本部・本部長
研究者番号：60532158

研究成果の概要（和文）：アジア域内の９か国の各国統計局から所得分布関連世帯統計のミクロデータとメタデータの提供を受け、それらミクロデータのファイル変換とメタデータの整備を行った上で、各国がこれまで実施してこなかった集計分析を行った。それらを例示として、データ提供国の統計局職員を対象に国際ワークショップを開催し、研究成果のデータ提供国への還元及びデータ提供国職員の分析能力の向上を図った。

研究成果の概要（英文）：We first standardized micro data sets and associated meta data on distribution of household income which were provided by nine Asian countries, and then made various tabulations and analyses which had not been done by the countries in the past. The findings and analytical results from these activities were fed-back to the statisticians of the member countries through four international workshops to contribute to strengthening their analytical capabilities.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2010 年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2011 年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2012 年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度			
総　計	9,900,000	2,970,000	12,870,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：経済学・経済統計学
キーワード：所得・資産分布、ミクロ統計データ分析

１．研究開始当初の背景

近年、所得格差拡大など所得分布に関する我が国研究者の研究ニーズが高まっている。国際的には、欧米諸国の家計収支関係のミクロデータを集めた Luxemburg Income Study(LIS)（ルクセンブルグ所得研究所）が有名であるが、アジア地域にはない。「アジア版 LIS があれば」の想いは研究者の方々の中に息づいていた。東京国際大学経済学研究科では、様々な準備を経て 2001 年４月から修士・博士課程に英

語で講義と研究指導を行うコースを設け、国連アジア・太平洋統計研修所の研修修了生（各国統計局職員）を文部科学省奨励金により受け入れていた。これらの留学生は、自国の家計調査などのミクロデータを持参し、教授陣から指導を受けながら、それを分析し、その結果を修士・博士論文にまとめていた。留学生の就学期限が終了すれば、持参したミクロデータは持ち帰られていたが、このコース発足に尽力した当時の東京国際大学経済学研究科長の松田芳郎教授等は、こうしたミクロデータを蓄積してアジア版 LIS を作ろうという構想を温めていた。本研究プロジェクトは、この構想に一歩近づくものである。

すなわち、幸便にも 2006 年 11 月４日・５日に、松田教授が研究分担者として参加する同大学神谷傳造教授を研究代表者とした科研「経済発展戦略からみた所得分布と担税能力との関連の統計的国際比較研究」（科学研究費補助金 2003～06 年度基盤研究（A）課題番号 15203411）の第４回国際研究集会が開催された。折りしも、東アジア統計局長会議等のために東京に参集していたアジア諸国の統計局長をこの集会に招待し、集会終了後に、本研究プロジェクト樹立のため、政府統計ミクロデータの利用について『研究目的のためのミクロデータの統計的利用のための実験的研究所についての憲章』を示してミクロデータの提供について協力を要請したところ、インドネシア、カンボジア、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、ベトナム、マレーシア及びラオスの８ヵ国の統計局長の署名を得ることができた（その後、モンゴルが署名、タイがプロジェクトへの参加に同意）。

そして、2009 年、本プロジェクトが科研に採択されたのを受けて、前述の諸国から家計収支関連の政府統計調査のミクロデータの提供を受け、研究を開始することになったのである。

２．研究の目的

各国それぞれの母国語で書かれた調査票、調査の方法に関する資料、ミクロデータに関するドキュメント等を英訳し、計算機統計学の研究者により、国際的に流通可能な英語のデータに編成する。データは匿名標本データ化し、秘匿の内容や外部公開の際における適正な規模（原データからの抽出率）の検討を行う。統計学・経済統計学の専門家である研究分担者は、作成された匿名標本データを用いて具体的な実証分析を行い、その分析結果を研究報告会において報告し、国際比較の実証研究に利用可能なことの検証を行う。さらに、データ提供国の統計局職員を対象として国際ワークショップを開催し、研究成果のデータ提供国への還元とデータ提供国職員の分析能力の向上を図る。

３．研究の方法

本研究プロジェクトは、主に東京国際大学経済学研究科の教授陣と研究代表者が所属する（公財）統計情報研究開発センターの研究員との共同研究として行った。

① 財団の研究員が各国から提供された原データの整合性を点検する。ミクロデータとメタデータ（データレイアウトフォーム及びコード表の記載事項）が整合しているか否かを調べ、両者に矛盾があるときは、メタデータを修正して両者の整合を図る。

② 統計学・経済統計学の専門家である研究分担者が、同じく研究分担者である財団の研究員とともに、整合性を確認したデータから作成した匿名標本データを用いて、独自のテーマで解析研究を行う。

③ 分析結果を部内の研究報告会において報告し、国際比較の実証研究に利用可能なことの検証を行う。

④ データ提供国の統計局職員を招待し、作成した匿名標本データを用いた分析等に関する国際ワークショップを開催する。

４．研究成果

研究成果としては、匿名標本データの公開許可の協定書の署名を得た８ヵ国（インドネシア、カンボジア、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、ベトナム、マレーシア、モンゴル）のほか、研究への協力の得られたタイについて、ミクロデータのファイル変換とメタデータの整備を行った。これだけ多くのアジア地域の発展途上国の個票ミクロデータを、公開を前提として整備したのは、画期的なことである。

また、研究結果をデータ提供国に還元するために、毎年度１回、各国統計局職員の参加を得て国際ワークショップを開催した。研究の最終年度に開催した第４回国際ワークショップには、協定書への署名国ではあったが、これまで参加していなかったラオスの参加を得、ミクロデータとメタデータの提供を受けた。今後の発展を期待できる出来事であった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連例研究者には下線）

［雑誌論文］（計３件）

① 松田芳郎、米澤　香、安井浩子、新井郁子、ミクロデータからみたタイの家計、（公財）統計情報研究開発センター『ESTRELA』、No.215、2012/02、pp.4-11、

② 遠藤　尚、アナン・ラクソノ、インドネシアにおける消費支出水準からみた世帯の特徴、（公財）統計情報研究開発センター『ESTRELA』、No.215、2012/02、pp.16-22、

［学会発表］（計９件）

① 馬場康維、米澤　香、安井浩子、新井郁子、ミクロデータを用いたスリランカの家計収支の地域差分析、公的統計のミクロデータの分析に関する第４回国際ワークショップ、2012/12/16、東京国際大学第１キャンパス、

② 牧　厚志、不平等と貧困に関する現物消費の効果：ベトナムの事例、公的統計のミクロデータの分析に関する第４回国際ワークショップ、2012/12/16、東京国際大学第１キャンパス、

③ 村田磨理子、マレーシア2004-05年世帯支出調査のマイクロデータセットに基づくマレーシアの所得と支出、公的統計のミクロデータの分析に関する第３回国際ワークショップ、2011/09/16、神戸学園都市UNITY、

④ 菅　幹雄、バングラデシュ2000年世帯所得支出調査を用いた世帯所得の一考察、公的統計のミクロデータの分析に関する第２回国際ワークショップ、2010/09/17、東京国際大学早稲田キャンパス、

⑤ 伊藤彰彦、米澤　香、安井浩子、ネパール2003/04年生活水準調査Ⅱを用いたネパール人の経済活動（日本人との比較において）、公的統計のミクロデータの分析に関する第１回国際ワークショップ、2010/03/17、東京国際大学早稲田キャンパス、

［図書］（計１件）

① 伊藤彰彦、他、（公財）統計情報研究開発

センター『Sinfonica研究叢書』(国際ミクロデータ・ラボラトリー研究報告)、2013/09/30、p.210

６．研究組織
(1)研究代表者
伊藤　彰彦（ITO AKIHIKO）
(公財)統計情報研究開発センター・研究開発本部・本部長
研究者番号：60532158

(2)研究分担者
松田　芳郎（MATSUDA YOSHIRO）
青森公立大学・経営経済学部・客員教授
研究者番号：30002976

馬場　康維（BABA YASUMASA）
統計数理研究所・名誉教授
研究者番号：90000215

周防　節雄（SUOH SETSUO）
(公財)統計情報研究開発センター・研究開発本部・客員上席研究員
研究者番号：90162841

牧　厚志（MAKI ATSUSHI）
東京国際大学・経済学部・教授
研究者番号：20051906

菅　幹雄（SUGA MIKIO）
法政大学・経済学部・教授
研究者番号：50287033

遠藤　尚（ENDO NAO）
高知大学・教育学部・助教
研究者番号：40532156

村田　磨理子（MURATA MARIKO）
(公財)統計情報研究開発センター・研究開発本部・主任研究員
研究者番号：20443319

米澤　香（YONEZAWA KAORI）
(公財)統計情報研究開発センター・研究開発本部・主任研究員
研究者番号：50443320

安井　浩子（YASUI HIROKO）
(公財)統計情報研究開発センター・研究開発本部・研究員
研究者番号：90443324

新井　郁子（ARAI YUKO）
(公財)統計情報研究開発センター・研究開発本部・研究員
研究者番号：60443321

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：